

1939年に愛知県渥美半島伊川津で採集された ヒトミハゼ（ハゼ科魚類）の標本

尾山大知^{1,2,3)}・北原佳郎⁴⁾

Specimens of the Sleepy goby *Psammogobius biocellatus* (Valenciennes, 1837) collected from Ikawazu, Atsumi Peninsula of Aichi Prefecture, Japan in 1939

Daichi Oyama^{1,2,3)} and Yoshiro Kitahara⁴⁾

はじめに

ヒトミハゼ *Psammogobius biocellatus* (Valenciennes, 1837) は、主に河川の河口から感潮域下部にかけて生息するハゼ科 Gobiidae 魚類である（瀬能, 2021）。本種はインド洋から西太平洋にかけての熱帯・亜熱帯域に広く分布し、日本国内ではこれまでに千葉県および神奈川県以南から記録されている（山川ほか, 2020, 2023; 瀬能, 2021）。愛知県内では、中村（1941）が1939年9月に渥美郡伊川津（現在の田原市伊川津町）のアマモ *Zostera marina* Linnaeus, 1753 群落で採集した3個体を報告している（*Glossogobius biocellatus* として）。しかし、近年の県内の河口から感潮域下部における網羅的な調査（例えば荒尾ほか, 2007; 荒尾, 2025）では本種は確認されておらず、現在に至るまで県内からの追加記録は報告されていない。中村（1941）が報告した1939年の愛知県におけるヒトミハゼの出現例は、ヒトミハゼの九州本土以北における初記録であるほか（明仁親王, 1964）、その後九州本土より北の本州・四国では1990年代に至るまで約50年間本種の確認が途絶えていたこともあるため（山川ほか, 2020）、生物地理学的観点から注目に値する。しかしながら、中村

（1941）では標本の採集日と個体数、体長が述べられているだけで、標本の形態や収蔵先等は不明であった。

このたび、東京大学総合研究博物館動物部門に所蔵されている魚類標本資料の整理過程において、未登録のヒトミハゼ3標本が発見された。ラベル情報を精査した結果、これらの標本は中村（1941）が報告した愛知県伊川津産標本であると判明した。これらは愛知県におけるヒトミハゼの出現を裏付ける唯一の標本である。また、標本情報を伴わない過去の文献記録と証拠標本の紐付けは地域の魚類相を検討する上で有意義であると思われることから、これらの標本情報を報告する。

方法

標本の計数計測方法や各部の名称は、中坊・中山（2013）および明仁ほか（2013）に従った。標準体長は体長と略記した。なお、本報で使用した標本は東京大学総合研究博物館動物部門の魚類資料（ZUMT）として登録されている。

1) 東京大学教養学部. College of Arts and Sciences, The University of Tokyo, 3-8-1 Komaba, Meguro-ku, Tokyo 153-0041, Japan.

2) 神奈川県立生命の星・地球博物館. Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, 499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan.

3) 千葉県立中央博物館（市民研究員）. Citizen Scientist, Natural History Museum and Institute, Chiba, 955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-0852, Japan.

4) 株式会社環境アセスメントセンター. Environmental Assessment Center CO. LTD, 13-12 Seikan-cho, Aoi-ku, Shizuoka City, Shizuoka 420-0047, Japan.

Corresponding author: Daichi Oyama. E-mail: d-oyama@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

原稿受付 2025年11月15日. Manuscript received Nov. 15, 2025.

原稿受理 2025年12月18日. Manuscript accepted Dec. 18, 2025.

キーワード: 古標本, 熱帯・亜熱帯性魚類, アマモ.

Key words: historical specimen, tropical and subtropical fish, *Zostera marina*.



第1図. 愛知県伊川津産のヒトミハゼ *Psammogobius biocellatus* (A: ZUMT 67974, 体長 18.8–37.3 mm, 1939年9月14日採集; B: ZUMT 67975, 体長 38.4 mm, 1939年9月28日採集). スケールバーは1 cm.

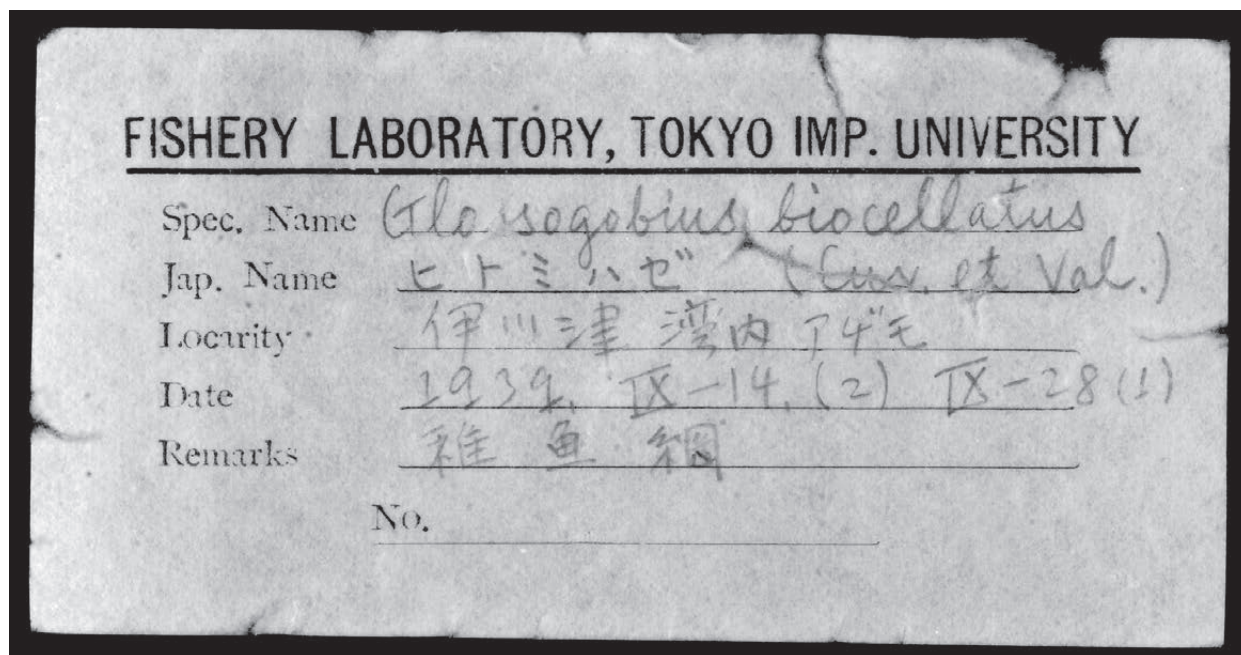
結果と考察

ヒトミハゼ *Psammogobius biocellatus* (Valenciennes, 1837)
(第1図)

標本 ZUMT 67974, 2個体, 体長 18.8–37.3 mm, 伊川津湾内(現在の愛知県田原市伊川津町), 1939年9月14日, 稚魚網, 中村中六採集; ZUMT 67975, 1個体, 体長 38.4 mm, 1939年9月28日, その他の情報は同上.

上記の3標本は, 吻長(体長の8.3–9.1%)が眼径(体長の5.8–8.1%)より長いこと, 舌の先端が深く切れ込むこと, 虹彩皮膜を持つこと, 左右の鰓膜が狭部を横切って癒着すること, 腹鰭に黒色斜帯があることなどの特徴が, 明仁ほか(2013)と瀬能(2021)の示すヒトミハゼ *Psammogobius biocellatus* の標徴とよく一致したため, 本種と同定された.

ヒトミハゼは, インド太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布し(明仁ほか, 2013; 瀬能, 2021), 日本国内では千葉県および神奈川県以南の各地から記録されている(第1表: 中村, 1941; 明仁親王, 1964; 池ほか, 1991; 玉田, 1998; 橋本・高橋, 1999; 平嶋, 2000; 平嶋・中谷, 2001, 2012; 三宅ほか, 2006; 荒尾ほか, 2008; 江口ほか, 2008; 辻・松田, 2009, 2011; 北原ほか, 2010; 大塚ほか, 2010; 神田, 2011; 明仁ほか, 2013; 吉郷, 2014; 米沢・四宮, 2016; Iwatsuki et al., 2017; 北原ほか, 2019; 山川ほか, 2020, 2023; 瀬能, 2021; 田代ほか, 2022; 岡村ほか, 2022; 出羽, 2023, 2024; 池辺ほか, 2023; 中村ほか, 2024; 武藤, 2025; 中村ほか, 2025; 土田ほか, 2025; 国土交通省, 河川環境データベース <https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html>, 2025年11月10日閲覧). 愛知県では, 中村(1941)が1939年に渥美郡伊川津(現在の田原市伊川津町)で採集した3個体を報告したが, 同



第2図. 愛知県伊川津産のヒトミハゼ *Psammogobius biocellatus* の標本と同封されていたラベル。

著にはヒトミハゼの写真や同定の根拠は示されておらず、その後の県内における魚類相調査では本種は確認されていなかった。したがって、本報告の3標本は県下での本種の出現を示す確実な証拠となる。

上述のとおり、ヒトミハゼは主に熱帯・亜熱帯域に分布し、これまで温帯域での出現例は稀であった。ヒトミハゼを含む熱帯・亜熱帯性魚類について、近年の黒潮流域において従来の分布域より北方の地域での確認事例が増加しており、北上傾向にあることが示唆されている（例えば、山川ほか，2018，2020）。一方で、およそ90年前の1930年代の時点でも、主な分布域より遙か北に位置する地域に熱帯・亜熱帯性魚類が出現していた事例が報告されている（例えば、小枝，2022）。ヒトミハゼについても、近年本州太平洋岸での出現が増加していることが指摘されているが（山川ほか，2020）、以前より稀ながらも南方からの来遊があったことが示唆された。

上記3標本は、東京大学総合研究博物館動物部門所蔵の魚類標本の整理中に、第2図に示したラベルと同瓶中から発見された。産地は「伊川津湾内アデモ」とあり、アデモはアマモの別名であるアジモを指すと考えられる。また、採集日は「1939, IX - 14 (2), IX - 28 (1)」と記されており、1939年9月14日と同年同月28日に伊川津湾内のアマモ群落からヒトミハゼをそれぞれ2標本と1標本を採集したとする中村（1941）とよく一致する。さらに、同ラベルには「Fishery Laboratory, Tokyo Imp. University」との記載があ

り、当時の東京帝国大学水産実験所で使用されていたと考えられる。中村（1941）の著者である中村中六博士（1913-1999）は1939年に東京帝国大学農学部水産学科を卒業し、その後同学の助手（のちに助教授）に任官された（室賀，1999）。今回発見されたヒトミハゼの採集時期は中村中六の東京帝国大学水産学科での在籍期間にあたる。また、東京帝国大学水産実験所は水産学科の附属で、中村（1941）も言及しているように当時は伊川津に所在していた。そのため、中村（1941）の採集調査は水産実験所を拠点に行われたと推測され、これらを総合的に踏まえて、本研究では今回発見された3標本は中村（1941）の採集個体であると判断した。

なお、3標本は2日間にわたって採集されたものであるが、発見時1瓶にまとめて保管されていた。そのため、本研究では中村（1941）に記された各標本の体長を参考にして、各日の採集標本を判別した。

今回、愛知県産ヒトミハゼの標本が発見された東京大学総合研究博物館動物部門の魚類標本資料（ZUMT）は、同学理学部動物学教室に由来する標本群であり、中村中六が在籍していた農学部水産学科由来の標本群（同館水産動物部門の魚類標本資料：FUMT-P）とは異なるため（小枝，2021）、ヒトミハゼの標本が動物学教室に持ち込まれた経緯は不明である。しかし、同教室では富山一郎博士（1906-1981）が1936年にハゼ亜目魚類の分類学的研究で学位を取得し、1938-1945年の上海自然科学研究所赴任後に東京大学に勤務し、同教室の資料を管理していた。そのため、当時ハゼ類の分

第1表. 九州本土以北におけるヒトミハゼの文献記録（採集年が判明しているものに限る）.

地域	県名	日付	場所	個体数	文献	
本州	千葉県	2021年10月3日	館山市正木, 平久里川	1	山川ほか (2023)	
	神奈川県	2018年7月18日	逗子市桜山, 田越川	1	山川ほか (2020)	
		2018年10月10日	逗子市桜山, 田越川	1	山川ほか (2020)	
		2018年10月20日	逗子市桜山, 田越川	2	山川ほか (2020)	
		2018年10月26日	逗子市桜山, 田越川	1	山川ほか (2020)	
		2018年11月7日	逗子市桜山, 田越川	2	山川ほか (2020)	
		2018年11月10日	逗子市桜山, 田越川	1	山川ほか (2020)	
		2018年11月18日	逗子市桜山, 田越川	1	山川ほか (2020)	
静岡県		1998年11月15日	掛川市, 弁財天川	1	荒尾ほか (2008)	
		2008年10月30日	賀茂郡南伊豆町手石, 青野川	1	北原ほか (2010)	
		2012年10月21日	掛川市国安, 菊川	1	北原ほか (2019)	
愛知県		1939年9月14日	渥美郡渥美町伊川津 (現・田原市伊川津町), 伊川津湾	2	中村 (1941); 本報告	
		1939年9月28日	渥美郡渥美町伊川津 (現・田原市伊川津町), 伊川津湾	1	中村 (1941); 本報告	
和歌山県		1998年8月25日*	東牟婁郡那智勝浦町, ゆかし湯	1	平嶋・中谷 (2001, 2012)	
		1999年12月6日*	海草郡下津町 (現・海南市下津町), 加茂川	1	平嶋 (2000)	
		2004年10月14日*	田辺市, 内之浦	1	池辺ほか (2023)	
		2010年10月28日*	西牟婁郡白浜町, 高瀬川	1	池辺ほか (2023)	
		2010年 (月日不明)	田辺市, 内之浦	1	池辺ほか (2023)	
		2020年9月 (日不明)	東牟婁郡那智勝浦町, ゆかし湯	1	池辺ほか (2023)	
		2020年 (月日不明)	東牟婁郡串本町田並	1	池辺ほか (2023)	
		2022年9月 (日不明)	東牟婁郡那智勝浦町, ゆかし湯	1	池辺ほか (2023)	
	大阪府	2023年11月4日	泉南市男里, 男里川河口	—	土田ほか (2025)	
	四国	高知県	1994年11月20日	西牟婁郡すさみ町, 周参見川	1	玉田 (1998)
		1998年11月3日	須崎市大間本町, 桜川	1	橋本・高橋 (1999)	
		2002年7月21日	須崎市, 桜川	1	三宅ほか (2006)	
		2004年4月8日	高知市横浜, 浦戸湾, 灘	1	三宅ほか (2006)	
		2004年12月11日	須崎市, 桜川	1	三宅ほか (2006)	
		2005年1月9日	高知市横浜, 浦戸湾, 西灘	1	三宅ほか (2006)	
		2016年10月15日	四万十市間崎, 四万十川	1	国土交通省 (2025) **	
		2018年9月11日	宿毛市, 松田川	—	岡村ほか (2022)	
		2021年7月21日	四万十市間崎, 四万十川	1	国土交通省 (2025) **	
		2021年10月5日	四万十市間崎, 四万十川	2	国土交通省 (2025) **	
愛媛県		2008年10月24日	八幡浜市, 千丈川	1	辻・松田 (2009, 2011)	
九州		宮崎県	1962年11月8日	宮崎市赤江, 大淀川河口「たんぼり」(現・津屋原沼)	2	明仁親王 (1964)
			2016年10月26日	児湯郡高鍋町大字蚊口浦, 小丸川	1	国土交通省 (2025) **
		2018年10月22日	宮崎市大字赤江, 大淀川水系津屋原沼	1	国土交通省 (2025) **	
		2022年7月14日	宮崎市大字田吉, 大淀川	3	国土交通省 (2025) **	
		2022年10月11日	宮崎市大字赤江, 大淀川水系津屋原沼	3	国土交通省 (2025) **	
		2022年10月12日	宮崎市大字田吉, 大淀川	1	国土交通省 (2025) **	
	鹿児島県	1988年8月29日	吹上町浜田 (現・日置市吹上町), 永吉川	1	池ほか (1991)	
		—1990年10月21日				
	2021年2月27日	鹿児島市本港新町, 鹿児島港本港区北埠頭, かごしま水族館「イルカ水路」	1	中村ほか (2024)		
	2021年6月8日	鹿児島市本港新町, 鹿児島港本港区北埠頭, かごしま水族館「イルカ水路」	1	中村ほか (2024)		
	2022年9月10日	南九州市穎娃町別府, 水成川	—	中村ほか (2025)		
	2023年1月5日	指宿市大牟礼, 二反田川	—	中村ほか (2025)		

* 詳細な採集年月日は平嶋健太郎氏からの私信による。

** 国土交通省, 河川環境データベース <https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html>, 2025年11月10日閲覧。

類学的研究が盛んに行われていた動物学教室に水産学
科より標本が寄贈された可能性が高い。

謝 辞

標本の整理および観察に協力いただいた藍澤正宏氏
ならびに上島 励博士（東京大学総合研究博物館動物
部門）、和歌山県におけるヒトミハゼの確認状況につ
いてご教示いただいた平嶋健太郎氏（和歌山県立自然
博物館）、文献収集に協力いただいた山川宇宙氏（筑
波大学大学院生命環境科学研究科）、是枝伶旺氏（鹿
児島大学大学院連合農学研究科）、原稿に対して有意
義なご意見をいただいた豊橋市自然史博物館研究報告
編集委員会の皆様深く感謝申し上げます。なお、本研
究の一部は千葉県立中央博物館の市民研究員制度の一
環として実施した。

引用文献

- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏, 2013. ハゼ亜目. 中坊徹
次(編), 日本産魚類検索:全種の同定第三版, 東海大学出版会,
秦野, 1347-1608, 2109-2211.
- 明仁親王, 1964. 九州で採集されたヒトミハゼ. 魚類学雑誌, 12
(1/2): 1-6. <https://doi.org/10.11369/jji1950.12.1>
- 荒尾一樹, 2025. 愛知県と三重県の河口域魚類(追補). 豊橋市
自然史博物館研究報告, (35): 31-38.
- 荒尾一樹・山上将史・大仲知樹, 2007. 愛知県の河口域魚類. 豊
橋市自然史博物館研究報告, (17): 29-40.
- 荒尾一樹・大和 剛・石田 淳, 2008. 静岡県の河口域で採集さ
れた魚類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (18): 29-32.
- 出羽優風, 2023. ヒトミハゼ. 樋之口蓉子・田島奏一朗・是枝伶
旺・本村浩之(編), 錦江湾奥 干潟の生き物図鑑, 特定非
営利活動法人くすの木自然館, 始良, 48.
- 出羽優風, 2024. ヒトミハゼ. 樋之口蓉子・田島奏一朗・是枝伶
旺・本村浩之(編), 錦江湾奥 干潟の生き物図鑑, 改訂版,
特定非営利活動法人くすの木自然館, 始良, 54.
- 江口勝久・中島 淳・西田高志・乾 隆帝・中谷祐也・鬼倉徳雄・
及川 信, 2008. 宮崎県北川の魚類相. 九州大学大学院農学
研究院学芸雑誌, 63 (1): 15-25. <https://doi.org/10.15017/9846>
- 橋本健一・高橋弘明, 1999. 高知県桜川で採集されたヒトミハゼ
(ハゼ科魚類). 南紀生物, 41 (1): 47-48.
- 平嶋健太郎, 2000. 和歌山県下津町加茂川の魚類Ⅱ～河口域の
利用の違い～. 和歌山県立自然博物館館報, (18): 27-34.
- 平嶋健太郎・中谷義信, 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚
類相(予報). 和歌山県立自然博物館館報, (19): 33-40.
- 平嶋健太郎・中谷義信, 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚
類相. 和歌山県立自然博物館館報, (30): 39-57.
- 池 俊人・西村一郎・松野知之・米沢俊彦, 1991. 永吉川の魚類
相. 鹿児島大学生物研究会会誌 LEBEN, (21): 46-53.
- 池辺(仲里)裕子・平嶋健太郎・東 邦光, 2023. 和歌山県にお
けるヒトミハゼの記録について. くろしお, (42): 22-24.
- Iwatsuki, Y., Nagino, H., Tanaka, F., Wada, H., Takahara, K., Wada, M.,
Tanaka, H., Hidaka, K. and Kimura, S., 2017. Annotated Checklist of
Marine and Freshwater Fishes in the Hyuga Nada Area, Southwestern
Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie
University*, 43: 27-55.
- 神田 猛, 2011. VI. 魚類(淡水魚). 延岡市(編), 第2次延
岡市環境基本計画 自然環境調査報告書, 延岡市, 延岡,
1-15.
- 北原佳郎・平川将寛・森口宏明・加藤健一, 2019. 静岡県におけ
るオニボラ *Ellochelon vaigiensis* の記録. 東海自然誌, (12):
21-27.
- 北原佳郎・加藤健一・酒井孝明・藤田敏也, 2010. 静岡県伊豆半
島青野川で採集されたヒトミハゼ. 兵庫陸水生物, (61/62):
177-181.
- 小枝圭太, 2021. 魚類の多様性を調べるとのこと. ウロボロス:
東京大学総合研究博物館ニュース, 26 (1): 10-11.
- 小枝圭太, 2022. 1932年に福島県から得られていた分布北限記
録のニセフウライチョウウチオウオ. 魚類学雑誌, 69 (1):
103-108. <https://doi.org/10.11369/jji.21-032>
- 三宅崇智・佐竹直人・黒木広大・町田吉彦, 2006. 高知市浦戸
湾南部に生息するハゼ科魚類. 四国自然史科学研究, (3):
38-49. https://doi.org/10.32250/sinh.3.0_38
- 室賀清邦, 1999. 中村中六先生のご逝去を悼む. 日本水産学会誌,
65 (5): 795.
- 武藤 滉, 2025. ヒトミハゼ. 木村清志・笹木大地(編), 美
し国の魚たち:三重県の魚類図鑑, 木村清志, 伊勢, 174.
<https://doi.org/10.69223/0002001485>
- 中坊徹次・中山耕至, 2013. 魚類概説第三版. 中坊徹次(編),
日本産魚類検索:全種の同定第三版, 東海大学出版会, 秦野,
3-30.
- 中村潤平・柏木伸幸・西田和記・堀江 諒・本村浩之, 2024. 鹿
児島湾内に位置するかごしま水族館の屋外生物展示水域「イ
ルカ水路」の魚類相. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*,
50: 26-55. https://doi.org/10.34583/ichthy.50.0_26
- 中村中六, 1941. 潮間帯のアマモ(*Zostera*)地帯に於けるハゼ
科魚類の季節的消長に就いて. 水産学会報, 8 (3/4): 239-
255.
- 中村亮太・是枝伶旺・本村浩之, 2025. 鹿児島県本土と宮古諸
島で採集されたマツゲハゼの記録. *Ichthy, Natural History of*

- Fishes of Japan*, **57** : 20–27. https://doi.org/10.34583/ichthy.57.0_20
- 岡村恭平・津野義大・富山陽聖・遠藤広光, 2022. 高知県初記録のカマヒレマツゲハゼ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, **27** : 7–10. https://doi.org/10.34583/ichthy.27.0_7
- 大塚高雄・野村彩恵・杉村光俊, 2010. 四万十川の魚図鑑. いかだ社, 東京, 163 p.
- 瀬能 宏 (監), 2021. 新版 日本のハゼ, 新訂・増補版. 平凡社, 東京, 588 p.
- 玉田一晃, 1998. 周参見川の魚類相. *南紀生物*, **40** (2) : 167–170.
- 田代郷国・是枝伶旺・藤原恭司, 2022. ハゼ科. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編), 薩摩半島沿岸の魚類, 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 237–264.
- 土田和幸・梶村麻紀子・平嶋健太郎, 2025. 大阪府男里川河口から得られた大阪湾初記録のニセツムギハゼ. *ニッチェライフ*, **13** : 35–36. https://doi.org/10.60269/nichelife.13.0_35
- 辻 幸一・松田久司, 2009. 愛媛県千丈川河口域より得られた分布上興味深いハゼ科魚類. *南予生物*, **15** : 47–51.
- 辻 幸一・松田久司, 2011. 愛媛県八幡浜市感潮域の魚類. *南予生物*, **16** : 12–38.
- 山川宇宙・三井翔太・丸山智朗・加藤柊也・酒井 卓・瀬能 宏, 2018. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 18 種 – 近年における暖水性魚類の北上傾向について –. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, (47) : 35–57. https://doi.org/10.32225/bkpmnh.2018.47_35
- 山川宇宙・三井翔太・小田泰一郎・森田 優・碧木健人・丸山智朗・田中翔大・斉藤洪成・津田吉晃・瀬能 宏, 2020. 相模湾およびその周辺地域で記録された分布が北上傾向にある魚類 7 種. *神奈川自然誌資料*, (41) : 71–81. https://doi.org/10.32225/nkpmnh.2020.41_71
- 山川宇宙・山下龍之丞・尾山大知, 2023. 千葉県初記録のオカメハゼおよびヒトミハゼ. *南紀生物*, **65** (2) : 105–108.
- 米沢俊彦・四宮明彦, 2016. ヒトミハゼ. 鹿児島県環境林務部自然保護課 (編), 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編—鹿児島県レッドデータブック 2016 —, 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 鹿児島, 103.
- 吉郷英範, 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuan*, **9** : 1–153. <https://doi.org/10.24564/0002008892>